

北村 善明さん (58)



宮城県生まれ。東北大学医学部附属診療放射線技師学校卒。東京・虎の門病院などに勤務。日本放射線技師会長。

チーム医療の重要性が高まっている。

「医師や看護師のほかに、私のような診療放射線技師を含め十数種のスタッフがいいます」
そうしたメディカルス

スタッフと呼ばれる専門家が協力し合い、医療現場を支えている。だが、その顔が見えにくく、一般にはほとんど知られていない。

昨年10月、13職種の専門家が集まり、チーム医療推進協議会を結成した。その代表を担う。

「もっとメディカルスタッフのことを知ってもらう活動が必要だと痛感」したからだ。シンポジウムを開いたり、待遇改善などの要望書を国に提出するなど精力的に活動する。そんな活動を通じて、異分野のメディカルスタッフ同士が顔を合わせる機会も増えた。そして、お互いによく知らなかったことを改めて実感したという。

「たとえば、リンパ浮腫の治療スタッフはリンパドレナージ・セラピストと呼ばれる。「恥ずかしい話、こういう専門家がいるのを初めて知りました」。風通しをよくしよう」と、職種間の交流に力を入れている。

乳がん検診などを担う放射線技師でさえ、意外に知られていない。全国に約4万5000人いるが、うち女性は2割程度だ。「もっと女性技師が増えれば受診率は上がるでしょう」と語るように、より広い視野からの医療の課題も見えてきた。

放射線技師会の会長として土日も出張し、休む暇はない。「好きなゴルフができない。人生でいまが一番忙しい」

文と写真・小島正美